

干潟の名称	島田川
干潟の所在地	山口県光市虹が浜
干潟の面積	約50ha
干潟の地形タイプ	河口干潟
干潟の底質	砂質
干潟植生	ヨシ原
干潟の特徴	島田川は玖珂郡周東町祖生字長瀬に発し、玖珂盆地を西流したのち、熊毛郡熊毛町、光市を貫流して周防灘に注ぐ。河口には突状三角州が発達している。河口付近では砂質の干潟が広範囲に発達しており、ヨシ原も見られる。
生物相の特徴	多数のウミニナ類、カワザンショウ類、ヒモイカリナマコが確認された。他にヨコヤアナジャコ、コメツキガニ等が優占する。また、今回は****、ヨシダカワザンショウ、ツブカワザンショウ、****の生貝が得られ、これらは新産地である。砂中にはオチバガイの生貝が多産し、河口の砂浜にはおびただしい数の新鮮な合弁死殻が打ち上げられている。イソシジミやヒメアサリも多産する。
調査者氏名	福田宏，鈴木田亘平，田牧愛，馬堀望美，森千恵
調査年月日	2002年10月14日

干潟の名称	笠戸島・小深浦
干潟の所在地	山口県下松市笠戸島小深浦
干潟の面積	約1ha
干潟の地形タイプ	前浜干潟
干潟の底質	砂泥質
干潟植生	なし
干潟の特徴	小深浦は笠戸島東岸に位置し、急に入り込んだ形状をした小規模な砂泥干潟である。潮上帯や後背地はコンクリート護岸されている。底質は砂泥で固く、礫などが点在する。附近の住民がアサリ等の潮干狩りを行っている。植生は見られない。
生物相の特徴	ホソウミニナ、アラムシロ等が優占している。転石表面にはスガイ、イシダタミ、タマキビ、クログチ、マガキ、シロスジフジツボなどが高密度で付着している。砂泥を掘るとアナジャコやヒモイカリナマコが見られるが、これらにはそれぞれマゴコロガイ、ヒモイカリナマコツマミガイが寄生していた。
調査者氏名	福田宏，鈴木田亘平，田牧愛，馬堀望美，森千恵
調査年月日	2002年10月13日

干潟の名称	山口湾・榎野川
干潟の所在地	A: 山口県山口市長浜 B: 山口県山口市深溝 今津川河口 C: 山口県吉敷郡阿知須町 千鳥が浜
干潟の面積	約700ha
干潟の地形タイプ	A, C: 前浜干潟 B: 河口干潟
干潟の底質	A: 砂泥質 B: 泥質 C: 砂質
干潟植生	A: アナアオサ多し B: 広範囲にヨシ原あり C: コアマモ群落
干潟の特徴	山口湾は榎野川河口部に形成される湾で、広大な面積の干潟をもつ。底質はほとんどの部分が泥からなる。A（長浜）は山口湾東岸と秋穂湾とを隔てる南北に細長い岬の南端近くに位置し、底質は砂泥質で、アナアオサが見られる。B（今津川河口）は山口湾北部、榎野川本流河口の南西に位置し、川幅は約10mと狭いものの、泥上にヨシ原が見られる。C（千鳥が浜）は今津川河口よりさらに南に位置し、底質は清浄な細砂底で水の透明度は高く、コアマモ群落が見られる。この干潟は春季には附近の住民が大挙して潮干狩りに訪れ、アサリ、ハマグリ、マテガイなどを大量に採集することができる。
生物相の特徴	山口湾では極めて多様な生物が見られる。A（長浜）では、干潟表層にはホソウミニナ、ウミニナ、****が多産する。B（今津川河口）では、ヒロクチカノコ、****、****、****類、シオマネキといった希少種が多数棲息する。この場所はセンベイヤワモチが初めて発見された場所であるが、今回は見出されなかった。C（千鳥が浜）はアマモ場に、近年激減しているイボキサゴ、ムラクモキジビキガイ、ハマグリが多数見られた。また、アナジャコの穴が多数確認された。砂中からはミドリシャミセンガイ、ヒガシナメクジウオなどの希少種も採集された。
調査者氏名	福田宏, 越山洋三, 溝口幸一郎, 鈴木田亘平, 田牧愛, 馬堀望美, 黒田一磨
調査年月日	A: 2002年5月12日 B, C: 2003年5月3日

干潟の名称	秋穂湾
干潟の所在地	A: 山口県吉敷郡秋穂町中道 B: 山口県吉敷郡秋穂町尻川 C: 山口県山口市長浜 美濃が浜
干潟の面積	約 150ha
干潟の地形タイプ	前浜干潟
干潟の底質	砂質
干潟植生	アマモ・コアマモ群落
干潟の特徴	秋穂湾は緩やかな弓状の形状をした砂質干潟で、清浄な砂浜と花崗岩質の岩礁が多く見られる。中道など湾の東部では特に広大な砂質干潟が広がり、アマモ・コアマモ群落が見られる。一方、湾の西側では砂干潟の中に岩礁が点在する。
生物相の特徴	多様な生物が見られるが、出現種それぞれの個体数はあまり多く見られなかった。砂浜では砂を掘ると、スジホシムシモドキおよびそれに付着しているスジホシムシヤドリガイが多数見られた。また、アナジャコ類の穴が多数確認された。すべての調査ポイントにおいて発達したコアマモ群落が確認された。イタボガキの生貝が表層から得られたり、砂中からはムラサキガイ、ハマグリ、ミドリシャミセンガイが得られるなど、希少種も確認された。C (美濃が浜) ではアマモ群落間の砂上に無数のハスノハカシパンが見られ、これにはカシパンヤドリニナが外部寄生しているのが多数見られた。
調査者氏名	福田宏, 鈴木田亘平, 田牧愛, 馬堀望美, 森千恵
調査年月日	2002年5月24日

干潟の名称	厚狭川
干潟の所在地	山口県小野田市後潟～厚狭郡山陽町渡場 厚狭川河口
干潟の面積	約500ha
干潟の地形タイプ	河口干潟
干潟の底質	軟泥質
干潟植生	ヨシ原
干潟の特徴	厚狭川河口は山口県小野田市と厚狭郡山陽町の境界に位置し、瀬戸内海周防灘へ流入する。河口部には干潮時に広大な泥質干潟が見られる。川岸には広範囲に良好なヨシ原が見られ、マガキ床なども見られる。
生物相の特徴	ヘナタリ類、ウミノナ類、マガキ、ユビナガホンヤドカリなどが優占する。非常に生物の多様性に富んでおり、上流部のヨシ原の内部ではヒロクチカノコ、****、****、ヘナタリ、カワアイ、****、カワザンショウ類、****類、センベイヤワモチ、シオマネキ、アリアケモドキ、ウモレベンケイガニなどが見られただけでなく、これまで有明海と博多湾からしか記録例のなかったアリアケガニも本州で初めて確認された。下流部では泥中に****やコオキナガイなどが見られた。
調査者氏名	福田宏，鈴木田亘平，田牧愛，馬堀望美，森千恵
調査年月日	2002年5月11日

干潟の名称	有帆川
干潟の所在地	山口県小野田市 有帆川河口
干潟の面積	約 350ha
干潟の地形タイプ	河口干潟
干潟の底質	砂泥質, 軟泥質
干潟植生	ヨシ原
干潟の特徴	有帆川は小野田市内を流れて瀬戸内海周防灘の西部へ流入し、厚狭川の東方に位置する。河口部では干潮時に広大な干潟が見られる。上流よりの部分ではやや固い砂泥質で、ヨシ原が見られる。中流部では河床に泥岩の平坦な岩盤が広がっている。さらに海に近い部位では極めて軟らかい泥質の平坦な干潟が広がる。
生物相の特徴	フトヘナタリ, マルウズラタマキビが優占する。上流部ではヒロクチカノコ, ****, ヨシダカワザンショウ, ****, アリアケモドキなどが見られ、センベシアワモチのものと思われる捕食痕も転石上に観察された。中流部の岩盤底では干潮時にウミゴマツボ, シラギク, カハタレカワザンショウ, ヨコヤアナジャコなどが見られ、周防灘では極めて記録例の少ない外来種コウロエンカワヒバリガイも 1 個体のみ発見された。下流部の軟泥底では****, テリザクラ, コオキナガイといった全国的にも稀な二枚貝類の生貝が複数確認されたことが注目になる。
調査者氏名	福田宏, 鈴木田亘平, 田牧愛, 馬堀望美, 森千恵
調査年月日	2002年5月11日

干潟の名称	木屋川
干潟の所在地	山口県下関市小月
干潟の面積	約 500ha
干潟の地形タイプ	河口干潟
干潟の底質	A: 泥質 B: 砂質 C: 泥質及び砂泥質
干潟植生	ヨシ原
干潟の特徴	木屋川は下関湾の最奥部に流入し、その河口を中心に湾内には大規模な砂質及び砂泥質の干潟が広がる。また、河口付近から約 3 km 上流にかけて、軟泥上に広いヨシ原が発達する。
生物相の特徴	広大な干潟では多様な生物が見られる。川岸の転石表面にはマルウズラタマキビ、クログチが多く見られる。ヨシ原の内部では、ヒロクチカノコ、****, ****, ウミニナ, カワザンショウ類, ****, シオマネキ (特に B 地点の砂干潟上に生じたヨシ原において密度が高い), ウモレベンケイガニ等の希少種が多数見られる。絶滅寸前の未記載種センベイヤワモチが多産することでもよく知られた場所であるが、今回の調査でも多数が見られた。また C 地点の軟泥上には****が複数匍匐しているのが確認され、泥中にはテリザクラ, コオキナガイ, ヒメヤマトオサガニなどが見られた。
調査者氏名	福田宏, 越山洋三, 鈴木田亘平, 田牧愛, 馬堀望美, 森千恵, 黒田一磨
調査年月日	2003年5月5日

干潟の名称	四万十川
干潟の所在地	高知県中村市
干潟の面積	約 12ha
干潟の地形タイプ	河口干潟
干潟の底質	砂質、礫質、泥質
干潟植生	主としてヨシ
干潟の特徴	四万十川とその支流の河口の河口域に点在する干潟。本流沿いの干潟は、礫を主体とした粗い底質で、後背部には、広範囲にわたってヨシ原が広がる。干潟の下方にはコアマモの海藻群落も見られる。河口近くで本流と合流する支流の方の干潟は、むしろ泥質が主体の底質になっており、ここも後背部にヨシ原を広く具える。
生物相の特徴	本流川の干潟は、転石や礫の下をすみ場所とする底生生物が主体となるのに対して、支流側の干潟には、泥質の干潟をすみ場所とする種が多い。泥質の干潟には、シオマネキや****、****などが普通に生息するが、反面、巻貝、二枚貝は見られない。ヨシ原内の生物は多様で、特にカワザンショウ類やベンケイガニ類の種類が多い。
調査者氏名	和田恵次、渡部哲也、黒田美紀
調査年月日	A・B：2002年7月12日、 C：2002年7月13日

干潟の名称	浦ノ内湾
干潟の所在地	高知県須崎市
干潟の面積	約10ha
干潟の地形タイプ	入り江干潟
干潟の底質	砂質ないし砂礫質
干潟植生	特になし
干潟の特徴	外界から大きく遮断された湾内に散在する干潟。周囲の護岸により潮間帯上部がほとんど欠落しており、干潟の干出面積は小さい。
生物相の特徴	底質がほとんど砂質のため、砂質に特徴的な底生動物で占められる。湾内はアサリが多産しているが、種はヒメアサリである。塩生植物群落のゾーンがないため、塩生湿地固有の生物を欠くが、湾内奥部の干潟におけるヨコヤアナジャコとそれに付くマゴコロガイの個体数が他に例を見ないほど高いことや、湾に流入する小河川に、****やカワスナガニといった希少種が多いことなど、特徴的な生物層をもっている。
調査者氏名	和田恵次、渡部哲也、黒田美紀
調査年月日	2002年7月11日

干潟の名称	永江川
干潟の所在地	岡山県岡山市乙子
干潟の面積	約2ha
干潟の地形タイプ	河口干潟
干潟の底質	砂泥質, 砂質。
干潟植生	ヨシ原
干潟の特徴	永江川は吉井川河口域の東側から注ぎ、河口域にはまとまったヨシ原が見られる。底質はほとんどが砂泥質からなる。河口部東側はコンクリート護岸がなされ、船着場として利用されている。
生物相の特徴	ヨシ原が発達しており、その根元あたりに高密度でフトヘナタリ、ヒラドカワザンショウが確認された。注目すべき種として****、ヒロクチカノコが挙げられる。河口部のコンクリート護岸された範囲ではイシマキ、タマキビ、マルウズラタマキビ等が多数確認された。一定の種の個体数は多く見られるものの、多様性はあまり大きくない。
調査者氏名	福田宏、鈴木田亘平、黒田一磨、森千恵
調査年月日	2004年10月1日

干潟の名称	水門湾
干潟の所在地	岡山県岡山市水門町
干潟の面積	約1ha
干潟の地形タイプ	入江干潟
干潟の底質	泥質、細砂質
干潟植生	ヨシ原
干潟の特徴	水門湾は吉井川河口域より東側に位置し、周囲はコンクリート護岸で囲まれているため大規模な干潟は見られない。小規模ではあるが底質が泥質のヨシ原や細砂質の干潟が見られる。
生物相の特徴	両岸がコンクリート護岸で囲まれているため、生物の多様性は乏しい。干潟からはクシケマスオの生貝が見出された。
調査者氏名	福田宏、鈴木田亘平、黒田一磨、森千恵
調査年月日	2004年10月3日

干潟の名称	笠岡湾
干潟の所在地	A：岡山県笠岡市大島川河口、B、C：岡山県笠岡市
干潟の面積	約5ha
干潟の地形タイプ	A：河口干潟、B、C：入江干潟
干潟の底質	A：軟泥質・砂泥質、B、C：泥質・砂泥質
干潟植生	ヨシ原
干潟の特徴	カブトガニで知られる笠岡湾は大島川河口部（A）に形成される。大島川河口部の大部分は軟泥質の底質からなるが、砂泥質のヨシ原が見られる部分もある。B、Cは周囲がコンクリート護岸で囲まれているが、泥質または砂泥質の広い干潟が見られる。
生物相の特徴	河口部（A）のヨシ原ではカワザンショウ類数種、フトヘナタリ等が確認された。さらにフタバカクガニ、アシハラガニ、ハクセンシオマネキ、アカテガニ、ベンケイガニ、イソガニ、ヒライソガニ、クロベンケイガニなどの甲殻類が確認された。干潮時に前方の干潟（B、C）では干潮時の汀線附近に高密度でホトトギスが確認され、驚くべきことにゴマフダマ、オリイレボラなど絶滅危惧種の生貝が複数個体確認されたが、これらは有明海等からの人為的移入かもしれない。
調査者氏名	福田宏、鈴木田亘平、黒田一磨
調査年月日	2004年10月13日

干潟の名称	高梁川
干潟の所在地	岡山県倉敷市
干潟の面積	約5ha
干潟の地形タイプ	河口干潟
干潟の底質	A：細砂質、B：礫質・砂質、C：軟泥質
干潟植生	ヨシ原
干潟の特徴	高梁川は岡山県新見市の花見山に発し、倉敷市を経て瀬戸内海へ注ぐ。水玉ブリッジライン付近の河口部西側（A, B）は埋立地で、両岸はコンクリート護岸がなされている。底質は砂質で所々に礫がみられ、小規模なヨシ原も見られる。河口部東側（C）にはまとまった範囲に泥質干潟が見られる。
生物相の特徴	川の両岸がコンクリート護岸で囲まれているため生物の多様性は乏しい。河口部の転石下ではヒメカワザンショウ、ヒラドカワザンショウ、イヨカワザンショウ、カハタレカワザンショウなどのカワザンショウ類や、****等が確認された。また細砂底部分の掘り返しによって数個体のクシケマスオの生貝やアナジャコ等が確認された。
調査者氏名	福田宏、鈴木田亘平、黒田一磨
調査年月日	2004年10月9日

干潟の名称	吉野川
干潟の所在地	徳島県徳島市
干潟の面積	約 175ha
干潟の地形タイプ	河口干潟
干潟の底質	泥質、砂質、礫質
干潟植生	ヨシ、アイアシ、シオクグ、イセウキヤガラ
干潟の特徴	大きな河川河口域に広範囲に干潟と塩性湿地が残されている地域。河口付近からおよそ 14.5 km 上流までの感潮域沿いに延々と干潟とヨシ原が続き、幅広い塩分濃度勾配と礫質、砂質から泥質までの多様な底質環境をもつ。特に、都市部に流れる大河川では最も破壊されやすい河口部付近の干潟が海浜植物のゾーンも含めて高い自然度で維持されている
生物相の特徴	大きな河川河口域に広範囲に干潟と塩性湿地が残されている地域。河口付近からおよそ 14.5 km 上流までの感潮域沿いに延々と干潟とヨシ原が続き、幅広い塩分濃度勾配とレキ質、砂質から泥質までの多様な底質環境をもつ。特に、都市部に流れる大河川では最も破壊されやすい河口部付近の干潟が海浜植物のゾーンも含めて高い自然度で維持されている
調査者氏名	和田恵次、渡部哲也、小倉洋平
調査年月日	2003年4月17～18日

干潟の名称	勝浦川
干潟の所在地	徳島県徳島市
干潟の面積	約9ha
干潟の地形タイプ	河口干潟
干潟の底質	礫質、砂質、泥質
干潟植生	ヨシ、アイアシ、シオクグ、フクド
干潟の特徴	規模は大きくないが、ヨシを中心とした塩性湿地と干潟が河口付近に維持されている。底質も礫、砂、泥と多様であり、植生も多様である。
生物相の特徴	環境が多様であることに伴い、底生動物相も多様である。河口寄りの砂干潟に見られるサビシラトリ、マテガイ、ハナグモリ、オオノガイといった二枚貝の種数が多いのが注目される。ヨシ原周辺には、カワアイ、****、ヒロクチカノコ、シオマネキなど貴重性の高い種も豊富である。
調査者氏名	和田恵次、渡部哲也、大田直友、大野恭子
調査年月日	2003年4月19日

干潟の名称	僧都川
干潟の所在地	愛媛県南宇和郡御荘町
干潟の面積	約6ha
干潟の地形タイプ	前浜干潟、河口干潟
干潟の底質	礫、砂質、泥質
干潟植生	ヨシ、シオクグ
干潟の特徴	大きな湾に流入する河川の河口に点在する干潟。礫が目立つが、砂や泥の所もあり、また塩性湿地も随所に残されていて、干潟環境の多様性が高い。
生物相の特徴	底生動物の多様性が極めて高く、稀少種も数多く記録される。多毛類のムギワラムシ、腹足類のカノゴガイ、ヒメカノコ、コゲツノブエ、ウミニナ、****、カワアイ、ドロアワモチ、二枚貝類の****、甲殻類のチゴイワガニ、ウモレベンケイガニ、魚類の****が記録上特に注目される。
調査者氏名	和田恵次、石村理知、野元彰人、木邑聡美、中西夕香、須賀秀夫、水野晃秀
調査年月日	2004年4月19～20日

干潟の名称	細ノ洲
干潟の所在地	広島県三原市細ノ洲
干潟の面積	約15ha
干潟の地形タイプ	沖洲
干潟の底質	砂質, 砂泥質
干潟植生	アマモ場, ミル等海藻
干潟の特徴	因島市北東部に浮かぶ細島の東方に位置し, 大潮の干潮時にのみ干出する沖洲で, 東西に約500mほどの楕円状をなす。東側は主として砂泥底で, コアマモ・アマモからなるアマモ場が発達するが, アマモや藻類は見られず多数の貝殻が見られる部分もある。西側は比較的粒径の細かい砂底が広がり, やはりアマモ場が見られる。
生物相の特徴	アマモ間には直径20cmに達する巨大なスナイソギンチャクが多数観察され, ヤツデヒトデ, スナヒトデ, トゲモミジガイ, ヨツアナカシパン, トゲアメフラシ, シマウシノシタ, ウミヒルモなども見られた。アマモ場を掘り返すと砂泥中からキヌタレガイ, ウズザクラ, ミジンコチョウシヤクシ, アシガイ, キヌタアゲマキ, バラフマテ, アカマテ, アケガイ, シナヤカスエモノガイなどの生貝が複数現れ, ミルクイの生貝も1個体のみであるが確認された。潮干狩りに訪れていた人の中には, ズベタイラギ, イタヤガイ, オオブンブクなどを得た人も見られた。また, ササクレマキノガイがハボウキに, ヤセフタオビツマミガイがクモヒトデの1種にそれぞれ外部寄生しているのが確認された。砂泥底の表面には多数のチゴバカガイの生貝が這い出ている。極めて多数の貝類の死殻が堆積しており, イセシラガイ, ヤチヨノハナガイ, ホクロガイ, シラオガイなどの殻が見られたが, 生貝は得られなかった。かつて当地で記録されたヒガシナメクジウオも今回は発見できなかった。
調査者氏名	福田宏, 鈴木田亘平, 池田伸繁, 黒田一磨
調査年月日	2004年6月3日

干潟の名称	宮島
干潟の所在地	広島県宮島町。A：厳島神社、B：多々良潟浦、C：青海苔浦
干潟の面積	約50ha
干潟の地形タイプ	A：入江干潟、B・C：前浜干潟
干潟の底質	A：泥・細砂・礫、B：細砂・礫、C：砂・礫
干潟植生	なし
干潟の特徴	宮島の地質は花崗岩が大部分であり、河口や干潟も貧栄養な環境である。また干潟の多くは砂質または礫質で、泥干潟は厳島神社周辺（A）などの限られた範囲でしか見られない。
生物相の特徴	宮島の大部分の干潟は砂質で、生物の多様性は乏しい。細砂底の干潟では九州から移入されたといわれるアサリが高密度で確認された。今注目すべき種として多数の****（未記載種の可能性あり）、全国的に絶滅の危機にあるウネムシロの生貝が挙げられる。その他、カワザンショウ類や少数の****等が転石下で確認された。
調査者氏名	福田宏、鈴木田亘平、黒田一磨、竹山佳奈、木村路子、木村幸子
調査年月日	2004年10月23, 24日

干潟の名称	重信川
干潟の所在地	愛媛県松山市
干潟の面積	約34ha
干潟の地形タイプ	河口干潟
干潟の底質	礫、砂質
干潟植生	ヨシ、ハマサジ、ハママツナ、コウボウムギ、シバ類
干潟の特徴	ヨシを中心とした塩性湿地が広く存在するが、感潮域の流程範囲は狭く、底質はほとんどが礫や砂利で、砂や泥の所は部分的に存在する程度。
生物相の特徴	底生動物の多様性はさほど高くないが、貧毛類のイソミミズが際だって多いことと、ハクセンシオマネキの生息が密度、生息域ともに極めて大きいのが特徴的である。
調査者氏名	和田恵次、石村理知、須賀秀夫
調査年月日	2004年4月18,20日